

表1 普及見込み地帯の試験成績 (2020~2022年)

品種名	成熟期 (月日)	倒伏 程度	主茎長 (cm)	主茎 節数	着莢数 (/株)	地上10cm 莢率 (%)	手刈り 子実重 (kg/10a)	子実重 比 (%)	百粒重 (g)	屑粒率 (%)	外観品質 (検査 等級)
十育180号	9.15	1.1	68	11.6	41.9	6.0	320	94	14.9	6.7	2下
きたろまん	9.17	1.4	68	12.7	44.0	13.3	339	<u>100</u>	15.8	5.9	2下

注1) 農試及び現地における10㎡規模の栽培試験、のべ31か所の平均値。
 2) 倒伏程度は観察により、0:無、0.5:微、1:少、2:中、3:多、4:甚で評価。
 3) 「きたろまん」を100(下線)とする「十育180号」の手刈り子実重の百分率。
 4) 品質(検査等級): 農産物検査規格あるいはそれに準ずる検査等級。

表2 土壌病害に対する抵抗性及び開花期頃の低温抵抗性

品種名	土壌病害					低温	
	落葉病菌レース		茎疫病菌レース				
	1	2	1	3	4	萎凋病菌	
十育180号	R	S	R	R	R	R	中
きたろまん	R	S	R	S	S	R	やや強

注1) 土壌病害抵抗性は、R: 抵抗性、S: 感受性(抵抗性をもたない)を示す。
 2) 低温抵抗性は、開花期頃の低温による着莢障害に対する抵抗性である。

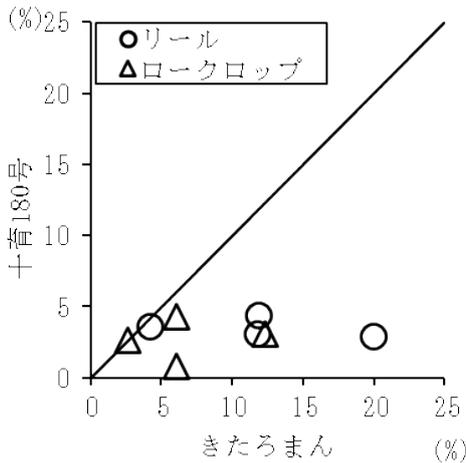


図1 ダイレクト収穫における収穫ロス
 注) 十勝農試、音更町、小清水町、北見農試において、2020~2022年に調査。

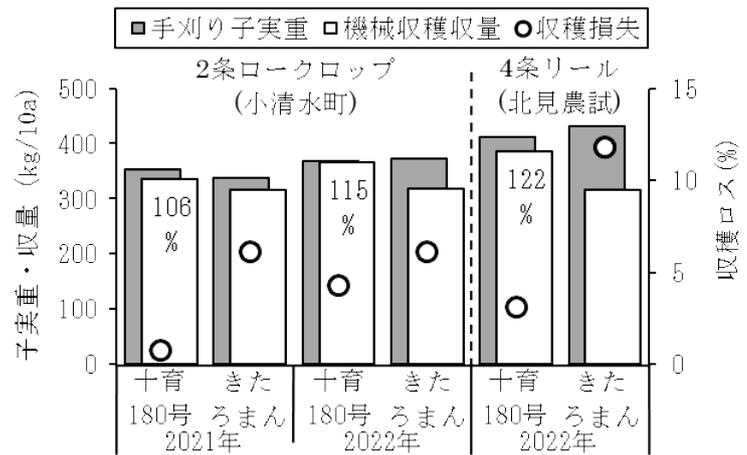


図2 実規模栽培試験における収量及び収穫ロス
 注1) 10a 規模の栽培試験。
 2) 百分率は「きたろまん」に対する「十育180号」の機械収穫収量比を示す。

表3 実需者による製品試作試験における評価

業者	生産地	生産年	評価
A社	十勝農試	2020	3
B社	音更町	2021	3
C社	小清水町	2021	3
D社	小清水町	2021	3
E社	音更町	2021	3

注) 評価は同産地の「きたろまん」と比べ、[5] (優る)~ [3] (同等)~ [1] (劣る)の5段階。

※本成績は、生研支援センター「イノベーション創出強化推進事業 (JPJ007097) (01019C、2019~2022年) の支援を受けて実施した。

詳しい内容については、次にお問い合わせください。
 道総研十勝農業試験場 豆類畑作グループ
 電話 (0155) 62-2431 E-mail: tokachi-agri@hro.or.jp

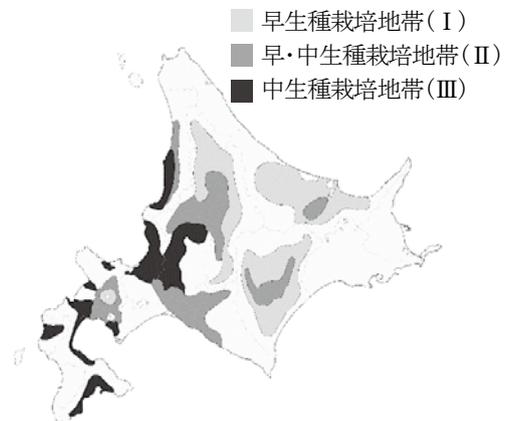


図3 普及見込み地帯 (小豆栽培地帯区分)
 注) 道産豆類地帯別栽培指針 (1994年 北海道農政部) による。